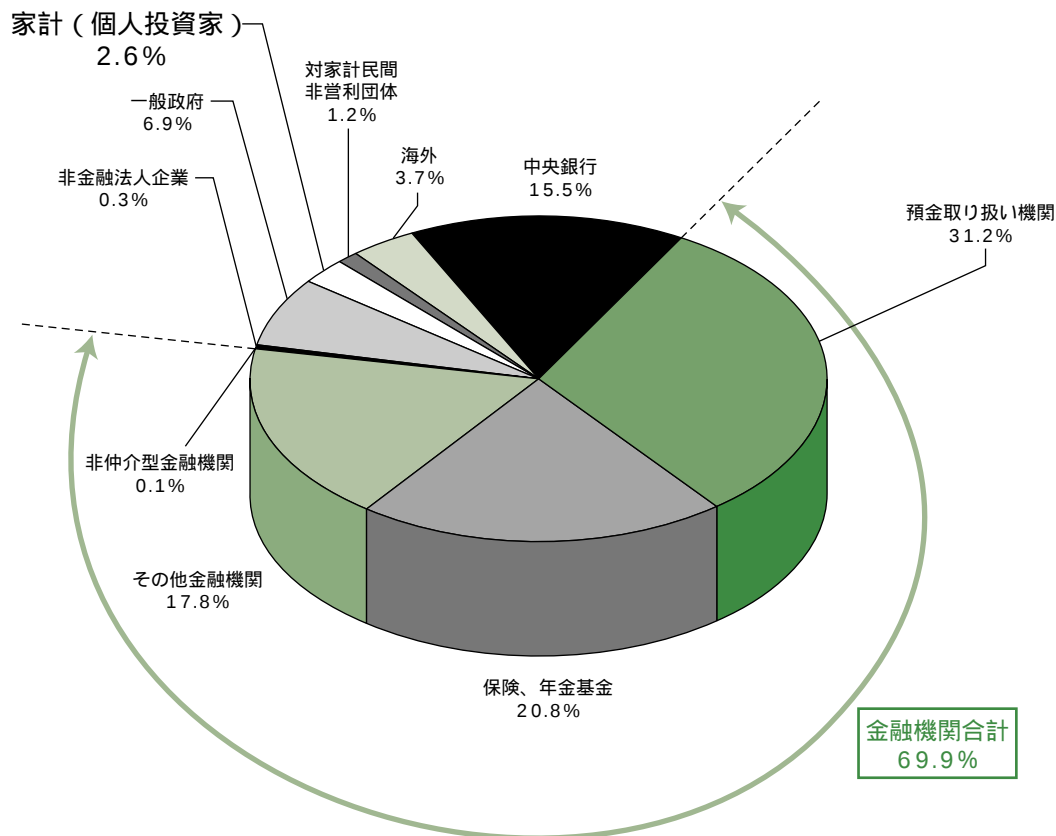


国債の保有者別内訳



（注）四捨五入の関係で合計は100%にならない

（資料）日本銀行「資金循環勘定」

わが国の国債保有者の内訳（2002年9月末現在）を見ると、銀行や保険会社などの金融機関が多くの割合を占める一方で、個人投資家は2.6%にとどまっている。個人投資家の発行残高全体に占める保有割合は、英米の半分以下である。

今後も高水準の国債発行が見込まれるなかで、投資家の厚みを広げる方向で円滑な消化を図っていくためにも、個人による国債保有の拡大は政府にとって重要課題となっている。

政府は、2003年3月より新たに個人向け国債を発売する。これは、1万円単位で購入

できること、半年ごとの変動金利なので金利の上昇時にも不利にならないこと、郵便局や民間金融機関で購入可能なこと、額面金額で中途解約できることなど個人投資家に配慮した工夫がなされている。

2002年度から発行が開始された地方自治体による個人向けミニ公募債は順調に消化されており、個人向け国債も相応に評価される公算が高い。

長期保有者としての個人投資家の割合を高めることは国債相場ひいては長期金利動向の安定にも資することとなる。

（経済調査部 TEL.03-3201-0531）